No.14 2015.4

九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

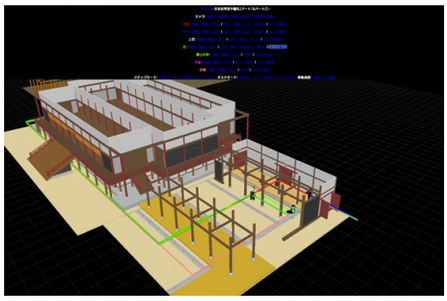
ICER Newsletter

3DCGアニメーションで学ぶ宮中の儀式

日本史学･宮中儀礼における対話型電子副教材の開発

昨年度、教材開発センターでは、人文科学研究院の坂上康俊教授と共に宮中の儀式（平安時代の「官奏（かんそう）」とよばれる諸国からの上申文書を大臣が天皇に奏上（そうじょう）する様子）を３次元 CG アニメーションで再現する対話型電子教材の開発に取り組みました。３次元 CG アニメーションで表現するために、種々の故実書や論文等から情報を収集し内容の精査を行い、紫宸殿（ししんでん）・陣座（じんのざ）・清涼殿（せいりょうでん）の三つの建物の形状モデル作成と大臣・大弁といった登場人物の振る舞いの定義を坂上先生と研究室のスタッフ・学生と協働で行いました。

この教材は、WebGL という技術を利用したウェブコンテンツとして開発を行いました。任意のウェブブラウザで閲覧し学習することができます。３次元 CG アニメーションで表現された建物や登場人物の振る舞いを見ることで、「テキストを読んで理解する以上に宮中の儀式の様子をより深く理解することができた」という感想が学生から得られました。今年度も引き続き、宮中儀礼における対話型電子副教材の開発を進める予定です。



【岡田 義広教授 (教材開発センター長)】

WebGL(ウェブジーエル)
ウェブブラウザ上で 3DCG を表示できる仕様のひとつ。
HTML5 をサポートするウェブブラウザであれば、特別なプラグインを必要とすることなく 3DCG の表示を実現することができる。

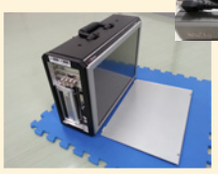
※画面は開発中のものです。実際には異なる場合があります。

講義収録配信システムを貸出しています

教材開発センターでは、先生方の講義をビデオ撮影し、編集・公開させていただいております。この場合、担当スタッフがビデオカメラを持参して講義室にお伺いし、撮影させていただくことになります。先生方ご自身で講義ビデオを作成されたい場合には、講義収録配信システムである Echo360 社の EchoSystem (https://www.scsk.jp/product/common/echo/) と Winnov Cbox (http://www.photron.co.jp/products/e-solution/cbox/) の貸出しを行っております。貸し出しをご希望の方は、ICER ウェブサイトに貸出し申込み用ページがございますので、そちらからお申し込み下さい。なお、申込み状況から貸出し期間等を調整させていただくことがございますので予めご了承下さい。

URL ▶ http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/lect_cast

▲ EchoSystem



◀ Winnov Cbox

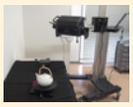
【岡田 義広教授 (教材開発センター長)】

2D/3D教材開発システム貸し出しについて

教材開発センターでは、2D/3D 教材開発システムを導入しております。先生方の講義資料や研究資料の作成等にお使い下さい。
システム構成と作成できるデータ等の情報は以下の通りです。

1）デジタル顕微鏡
高解像度画像ファイル (20 ～ 200 倍、4800(H)×3600(V) 画素、RGB 各 16 階調)

2）光学式モーションキャプチャー装置
モーションデータ (bvh 等)



3）3D スキャナー
3 次元点群データ (STL, rgv, rvm) と 3 次元形状データ (ply, obj, dxf 等)

4）3D プリンター
樹脂模型 (297×210×200(mm))

5）ハイスピードカメラ
連続画像ファイル (500 ～ 100,000fps、1696×1710 画素)

6）視線追尾装置
視線追尾動画像ファイル (AVI, BMP) と視線座標データ (CSV ファイル)

ご利用をご希望の先生は、ICER ウェブサイトに利用申し込みページがございますのでご活用下さい。スタッフが機材を持参して先生方の研究室へお伺いし、データ作成を行う場合と、資料等をお預かりして教材開発センターでデータ作成を行う場合のいずれかで対応させていただきます。なお、申込み状況から利用期間等を調整させていただくことがございますので予めご了承下さい。

URL ▶ http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/2d_3d

【岡田 義広教授 (教材開発センター長)】

著作権セミナーを開催しました

2015 年 3 月 13 日（金）、箱崎キャンパスの中央図書館視聴覚ホールにて、著作権セミナー「電子教材の開発と著作権 ～知の共有化へ向けて～」を開催しました。元文化長官官房著作権課マルチメディア著作権室長の放送大学 尾﨑史郎教授には、ICT 活用教育と著作権についてご講演いただき、電子教材の作成・提供する際に問題となる教材に含まれる他人の著作物の取り扱いについて、判例を交えた貴重なお話を伺いました。また、千葉大学アカデミックリンクセンター（ALC）の山中弘美副センター長より大学学習資源コンソーシアム (CLR) の設立についてご報告いただき、当センターの吉田素文教授が学内で開催している電子教材著作権講習会について報告しました。パネルディスカッションも含め、大変内容の濃いセミナーとなりました。

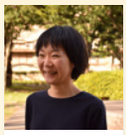
大学学習資源コンソーシアム：CLR（Consortium for Learning Resources）
大学の学習、教育における電子的学習資源の製作および共有化を促進させる体制の構築と著作物の円滑な利用環境を整備し、我が国の高等教育・学術研究の発展に寄与することを目的に、2014 年 5 月に設立され、現在 18 大学が加盟しています。吉田素文教授は、運営委員を務めています。

【河野 由起子（テクニカルスタッフ）】

着任のご挨拶

教材開発センター長
岡田 義広

本年 4 月より教材開発センター長を仰せつかりました岡田義広です。よろしくお願いいたします。平成 23 年 4 月に附属図書館の付設として設置されました本センターは、講義ビデオの撮影・編集・公開、MOOC 教材の制作、ICT を活用した電子教材の開発およびその支援、電子教材作成活用に係る各種講習会等を実施してまいりました。一昨年度には、2D/3D 教材開発システムや講義収録配信システム、スタジオの設置など電子教材作成のための設備も充実したものとなっております。電子教材を活用した講義実践のため、電子教材の作成支援をさせていただきますので、教材開発センターを積極的にご活用下さい。



助教
谷澤 亜里

平成 27 年度 4 月 1 日より助教として着任しました、谷澤亜里です。昨年 1 年間は MOOC の制作に関わらせていただきました。今後はこの経験を活かし、表現技法を工夫することで、九州大学で行われている様々な研究・教育活動が、よりよく行われるお手伝いをしていきたいと考えています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

教材作成をサポートします！

電子教材開発のための素材をご用意いただければ、教材を開発する場合のノウハウや技術面について教材開発センターがサポートさせていただきます。例えば、『学生がWebブラウザ上で教材コンテンツを見れるようにしたい』、『iPadやiPhoneを利用して教材コンテンツの閲覧を学生にさせながら講義を行いたい』、『教材を電子書籍として開発し学外に公開したい』、など、このようなご希望がございましたら、教材開発センターにご相談ください。

▶▶ 詳しくは、教材開発センターウェブサイト(http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/)まで ◀◀

編集・発行:九州大学附属図書館付設教材開発センター info@icer.kyushu-u.ac.jp
Copyright(C) 2015 Innovation Center for Educational Resource. All rights reserved.